



UD TRUCKS

サステナビリティ
レポート

2020

UDトラックス株式会社



お先にどうぞ😊

UD TRUCKS

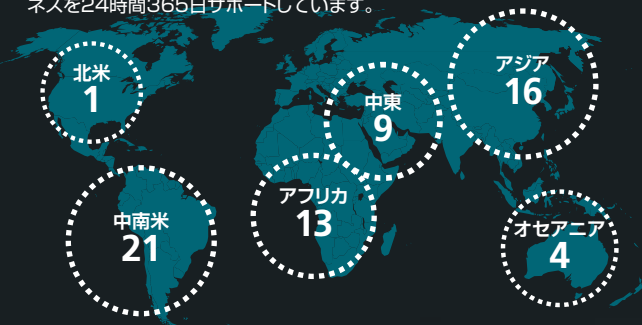
UDトラックスの今

トラックメーカーとして、80年を超える歴史を刻んできたUDトラックス。
時代が求める革新的な製品やサービスの開発・提供を通じて、
トラック物流の現場を支え、豊かな社会の実現に取り組んでいます。

販売・サービスを展開する国と地域

60以上

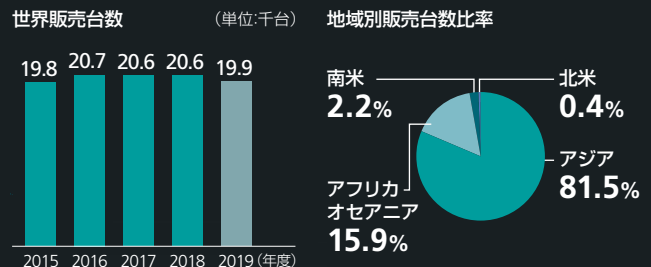
日本で、世界で、広範なネットワークを通じたきめ細かなサービスを展開。国内では約6万台のトラックとテレマティクスでつながるなど、お客さまのビジネスを24時間365日サポートしています。



2019年度の世界販売台数

19,911台

日本を中心に、アジア、アフリカ、オセアニアなどでUDトラックスの車両を販売。それぞれの市場のインフラや貨物特性に応じた物流ニーズに幅広く対応しています。



社歴

85年

1935年、ディーゼルエンジンの製造を目的に創立。社会のニーズに応え、新たな高みにチャレンジし続ける姿勢はUDトラックスのDNAとなっています。

国内サービスネットワーク

165カ所

(独立資本販売会社を含む)

UD純正部品と純正整備により、お客さまの車両をベストなコンディションに保ち、稼働率の向上を実現しています。

従業員数

6,442名

(日本国内、契約社員等および派遣社員を含む。2019年12月末日現在)

人材の多様性を高め、個人が最大限に能力を発揮できる環境が企業の持続性につながるという方針のもと、日本人だけでなくヨーロッパやアジア、アメリカ、アフリカなど28カ国籍の従業員が働いています。



「ベターライフ」を基軸に 持続可能な社会の実現に貢献。

ITの発展は、社会システムに劇的な変化をもたらしました。そして、今、新型コロナウイルスは、私たち一人ひとりの価値観にまで大きな影響を及ぼしています。しかし、一方で社会の血流に例えられる物流は、途切れることなく機能することが求められています。私たちは、主要な社会インフラである物流に関わるトラックメーカーとしての自覚をもつと同時に、それを持続可能なものとして発展させていく責任があります。すべてがつながる今の時代にあっては、業界や国を越えた世界的な視野が必要です。

今般、UDトラックスは、「ベターライフ」という考え方を私たちの存在意義として定義しました。「ベターライフ」——人と地球のより良い暮らしのために努力することが、社会における私たちの役割であり、持続可能な社会の実現につながると確信しています。

この大望を現実のものとするためにUDトラックスは、2025年をゴールとした新経営戦略を策定しました。環境負荷を低減し、お客さま満足の上昇に努め、働きがいのある職場を創ること、そしてその結果として利益率を

改善することを目標に掲げました。また、SDGsへの取り組みも加速させます。(詳しくはP3をご参照ください)

今後、社会の変化のスピードはさらに速まり、未知の領域へと進んでいくことでしょう。しかし、UDトラックスは常に「ベターライフ」という方向を見据え、ステークホルダーの皆様と協働し、課題解決のためにチャレンジを続けてまいります。今後とも一層のご支援をお願い申し上げます。



代表取締役社長

酒巻 孝光

編集方針

UDトラックスは、社会課題の解決に貢献する価値創造の取り組みや、それに伴う社会・環境面の取り組みをステークホルダーの皆様にご理解いただくために、「サステナビリティレポート」を発行しています。本レポートでは、「ベターライフ」の考え方や新経営戦略と、当社が注力している取り組みを中心に紹介しています。

報告対象範囲

UDトラックス株式会社
一部項目は、UDトラックスブランドとして海外で展開している活動も報告

報告対象期間

2019年度(2019年1月1日~2019年12月31日)
一部、それ以前の経緯やデータ、2020年度の活動、将来の活動予定も報告

発行年月

2020年12月

目次

UDトラックスの今	1
トップメッセージ	2
私たちの存在意義	
ベターライフ——人と地球のより良い暮らしのために	3
サステナビリティ活動報告	
お客さま満足の上昇をめざして	5
パートナーシップの強化	9
多様な人材の活躍支援	11
地域社会のために	13
環境経営の推進	15
コーポレート・ガバナンス	19
UDトラックスについて	21
ボルボ・グループについて	22

ベターライフ ——人と地球のより良い暮らしのために——

私たちのただ一つの住みかである地球。気候変動や人口増加、都市化など、この地球には今までにない大きな変化の波が押し寄せています。そして、物流業界においても、ドライバー不足やコスト低減、生産性の向上、規制強化といった新たな課題やニーズが顕在化しています。

社会の血流に例えられる物流は社会機能の維持に不可欠

なものであり、さらにその役割の拡大が期待されています。輸送量の増加は、物流業界にとってチャンスであると同時に、地球に対する負荷の増大を意味します。UDトラックスは、トラックメーカーとして、そして責任ある企業市民として、人と地球の「ベターライフ」の実現に貢献することが、私たちの存在意義だと考えています。

UDトラックスがめざす「ベターライフ」

ドーナツ経済学に着想を得て

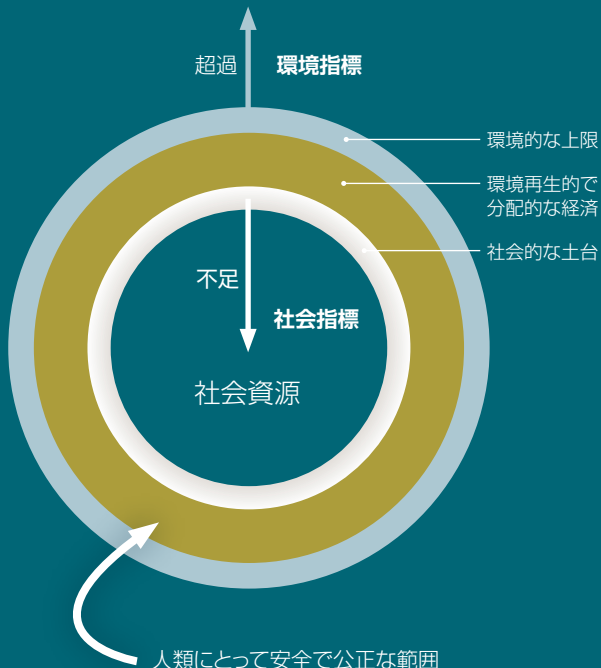
ベターライフは、イギリスの経済学者ケイト・ラワース氏が提唱するドーナツ経済学に着想を得ました。

「ドーナツ経済学モデル」は地球に悪影響を与えずに、いかにして人類を発展させていくかを視覚的に表したものです。モデルには2つの境界線があります。内側には社会基盤の、外側には環境の境界線があり、その2つの境界線の間にあるのが、人類が環境的にも社会的にも繁栄していける領域です。UDトラックスは、新経営戦略においてこの領域の実現に貢献することを戦略の核に据えています。

持続可能な開発目標(SDGs)を踏まえて

2015年に国連総会において、2030年までに持続可能でより良い世界をめざす国際目標としてSDGs (Sustainable Development Goals)が採択されました。17の目標と169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。UDトラックスでは、教育、健康・福祉、持続可能な都市、気候変動などに関する活動を積極的に推進しています。

ドーナツ経済学モデル



SDGs



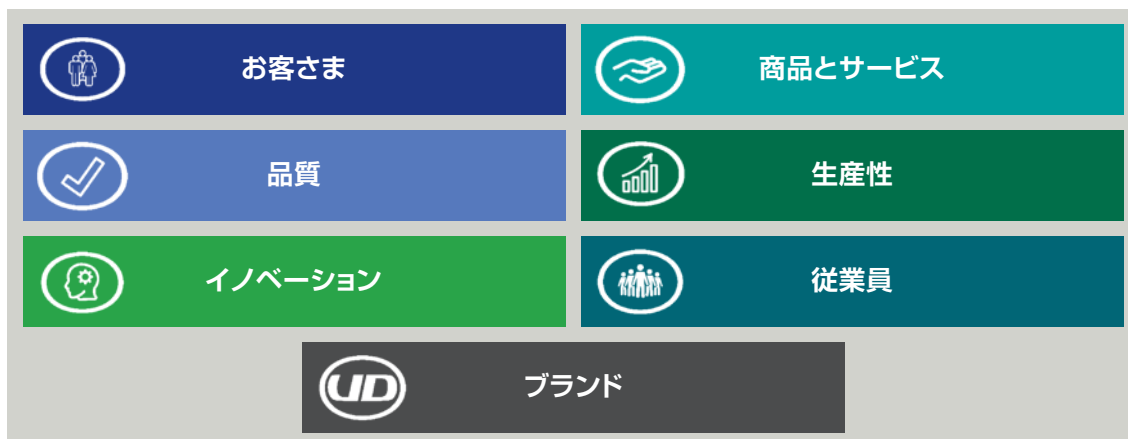
新経営戦略

UDトラックスは、事業活動を通して、お客さま、従業員、ビジネスパートナーなどすべてのステークホルダーに「ベターライフ(より良い暮らし)」を提供します。2025年までに下記の分野において、持続可能な企業となることをめざします。

2025年に向けた目標

- 環境負荷を低減する
- 顧客満足度を向上する
- 働きがいのある職場を創る
- 利益率を大幅改善する

7つの領域における施策



お客さま

物流業界を支えるステークホルダーと密接な関係を築くことで、社会課題に対してソリューションを提供し、お客さまの満足度を向上します。

品質

業界最高水準の製品・生産・サプライヤー品質を確保します。

イノベーション

自動運転、電動化、コネクティビティなど次世代技術の分野において、都市型物流が抱える将来の課題を解決していきます。さらに、業界の垣根を越えた協業やデータの積極活用などにより、イノベーションを創発します。

ブランド

UDトラックスに対するステークホルダーの理解を促進し、共に社会や地域へ貢献します。

商品とサービス

トラックドライバーの疲労軽減や、安全性向上、環境負荷低減などを念頭に置いた競争力のある商品を提供します。さらに、デジタル化を促進してお客さまの車両の稼働を支え、物流の効率化に貢献します。

生産性

デジタル化を通じて、開発から再生までトラック事業におけるバリューチェーンの最適化を促進し、生産性の向上を図ります。

従業員

能力開発、多様性の促進および従業員との対話を通じて、従業員のエンゲージメント(参画意識)を向上することで、高い業績を追求する企業文化を醸成します。ワークライフバランスを重視し、心身の健康を促進することで、従業員が安心して働ける職場を創ります。

お客さま満足の上ををめざして



基本的な考え方

UDトラックスは、お客さまに選ばれるビジネスパートナーであり続けることをめざしています。そのために、ボルボ・グループの品質方針に則り、開発から生産、販売、アフターサービスに至るすべての事業活動で、品質の確保・向上に取り組んでいます。

また、お客さまや市場のニーズ、交通インフラなどに適した先進的な製品とサービスを提供するとともに、ドライバーの確保や稼働率の向上、環境対応など、お客さまが直面する課題の解決を通じて収益や事業運営を支援し、物流業界における持続可能性の向上に貢献しています。

「品質月間」の取り組み

活動事例の共有で品質に対する意識を向上

毎年11月を「品質月間」と定め、品質に対する従業員の意識向上に取り組んでいます。2019年は、社内の活動事例を共有するワークショップを開催し、のべ550名以上の従業員が参加しました。

事例① バーチャルリアリティ技術の導入

新車開発にバーチャルリアリティ技術を導入し、設計時から実車両に近い評価を行っています。早期に不具合を発見して対策を講じ、さらに対策の有効性を確認することで、完成製品の品質を確保しています。

事例② 製造工程における「ボカヨケ」の取り組み

類似部品の組み立てミスを防ぐために、従業員が自ら考案・製作した専用治具を活用しています。誰もが熟練者と同様に高い精度の作業が可能になると同時に、作業負荷の軽減にもつながっています。

事例③ 技術関連コンテンツの充実

車両整備に不可欠な「整備要領書」「故障診断ガイド」などの記載情報を見直しました。現情報で対応できない問い合わせへのフォローアップの強化、故障診断機の診断ガイドの修正、作業内容・手順および時間の再確認などを行い、よりスムーズかつ的確な整備を実施しています。

品質

ISO9001 認証の取得

UDトラックスでは、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001を導入しています。生産部門では2002年度に、開発部門では2016年度にISO9001を取得しました。PDCAのサイクルを回していくことで、継続的な品質の向上につなげています。



各部門での取り組み

品質問題発生時の迅速な対応

品質問題の発生時にお客さまへの影響を最小限にするために、開発、生産、アフターマーケットの部門から構成される「クオリティ・アクション・グループ」を設置しています。同グループには、本社で対策を講じるチーム、ディーラー拠点やお客さまにも出向く技術専門チーム、支社に常駐して現地で直接対応にあたるチームを設けており、各チームが機能的に連携することで、問

題の特定から対策の実行までを迅速かつ正確に行っています。

こうした部門横断の取り組みによって、関係者全員で品質情報をタイムリーに共有するとともに、スムーズな対応につなげ、お客さま満足度の向上に努めています。

製品開発での取り組み

開発部門では、ボルボ・グループ共通のプロセスを取り入れながら、UDトラックス独自の品質評価基準を設けています。開発段階ごとにチェックポイントを設定し、性能、機能、耐久信頼性など各品質項目の目標達成状況を確認しています。このプロセスの構築により、品質の向上と同時に開発期間の短縮も実現しています。

生産での取り組み

生産部門では、UDトラックス独自の管理手法に従って部品のデリバリーや製造過程での生産・品質不具合を日々確認しながら、目標とする品質レベルを維持しています。より一層の改善を求めたUDトラックスの品質管理手法は、ボルボ・グループ内の各工場でも採用されています。

アフターサービスでの取り組み

整備スタッフのスキルアップを柱にサービス品質の確保・向上に努めています。

例えば最新の製品品質や技術サポート案件をディーラー拠点と共有し、現場の知識を強化する研修会「アップタイム・カンファレンス」を開催しており、2019年は全国のメカニックとパーツ担当者など約350名が参加しました。また、UDトラックスのアフターサービスに携わるスタッフの技能向上とチームワークの強化を目的とした世界規模の技能競技会「UD現場チャレンジ」では、実際のサービス現場で起こり得る実践的な課題が学科と実技で与えられます。参加者は課題に取り組むことで個人として新たな知識や技術を習得すると同時に、チームメンバーとの協力によって効率的に対処する経験を積んでいます。2018年大会には、世界各地から過去最多の347チーム、約1,300名が参加しました。

リコール&キャンペーン

お客さまの安全や環境に影響を及ぼす不具合が発生した場合には、国土交通省のガイドラインに基づき、速やかに情報を開示しています。

届出件数(各年1~12月)

	2017年		2018年		2019年	
	UDトラックス	ボルボ・トラック	UDトラックス	ボルボ・トラック	UDトラックス	ボルボ・トラック
リコール	6件	1件	9件	1件	10件	5件
改善対策	0件	1件	1件	0件	0件	0件
サービスキャンペーン	5件	3件	7件	3件	3件	2件

製品

市場ニーズに応える製品の提供

UDトラックスは、2019年1月、大型トラック「クオン」8リットルエンジンモデルを発売しました。8リットルエンジンの採用で11リットルエンジン搭載車との比較においてシャーシを300kg軽量化したことで積載量の大幅アップを実現し、近年輸送業界で高まる近・中距離輸送のニーズに対応しています。さらに、電子制御式トランスミッション「エスコット・シックス(ESCOT-VI)」と先進的な安全機能、高い環境性能により、ドライバー不足や環境対応などお客さまが直面する課題へのソリューションを提供しています。

また、UDトラックスは、海外においても各市場のニーズに応じた製品を提供しています。

先進安全技術の導入

社会やお客さまの安全性に対するニーズの高まりに応えるために、先進

的な安全技術の開発・普及を進めています。大型トラック「クオン」には、トラフィックアイブレーキ(衝突被害軽減ブレーキ)、ドライバーアラートサポート(ふらつき注意喚起装置)、LDWS(車線逸脱警報装置)、UDSC(車両横滑り時制動力・駆動力制御装置)など、先進技術から生まれた安全システムを搭載しています。また、耐フェード性、放熱性の高いディスクブレーキを採用するなど、すべての基本性能に安全への配慮を盛り込んでいます。これらによって、ドライバーの安全運転のサポートに加えて、周囲の道路利用者の安全性も同時に確保することをめざしています。

アフターサービス

整備拠点の改善

お客さまに製品を常に最適な状態でご利用いただけるように、サービスの拡充に取り組んでいます。その一環として、2014年からカスタマーセンター(CC)のリニューアルを進めてい

ます。

整備を待つ間もくつろいでいただけるように、落ち着いたインテリアと空調を完備したお客様待合室を設け、CCによっては、女性専用待合室やシャワールームも設置しています。また整備工場には、LED照明や採光式の屋根、フロアーリフト、キャタピラ式リフトなどを採用し、作業効率を向上しています。同時に、環境やメカニックの負荷軽減にも配慮しています。

「スタープログラム」の推進

業務改善を計画的に進め、お客さまにより良いサービスを提供するために、サービスレベルを3段階(★ワンスター、★★ツースター、★★★スリースター)で向上していく「スタープログラム」を全国のCCに展開しています。

認定は専任の担当者によって行われ、各活動が評価基準に適合しているか詳細に確認して判断しています。また認定後も定期的な社内監査を実施して、レベルの維持に努めています。このプログラムは自社だけでなく、独立資本の販売会社の整備拠点へも展開しています。

先進技術への取り組み——自動運転大型トラックによる実証実験を実施

UDトラックスは、2019年8月5日～30日にかけて、日本通運(株)、ホクレン農業協同組合連合会との3社合意に基づき、北海道でレベル4技術を用いた大型トラックによる自動運転の実証実験を実施しました。また、同29日には政府、業界、報道機関関係者を招待し、実証実験を公開しました。

自動運転技術は、トラック輸送業界が直面する課題への解決策として期待が寄せられています。実験では大型トラック「クオン」をベースに開発した車両に、ネットワークRTK-GPS(リアルタイムキネマティック全地球測位システム)を搭載し、ホクレンの中斜里製糖工場周辺の公道から、てん菜集積場、加工ラインまで、実際の運搬業務を想定した環境を整備。悪天候や悪路においても誤差数センチで自己車両の位置を測定しながら時速20kmで自律走行することを確認しました。公道を一部含むルートでの自動運転大型トラックの実証実験は国内初となりました。



お客さまサポート

女性ドライバー試乗会・意見交換会

日本国内では貨物輸送の9割以上※をトラックが担う一方で、トラックドライバーの不足が社会課題として顕在化しています。なかでもトラックドライバーに占める女性比率は約2.4%と低く、労働環境の改善を通じて、女性の業界参画を促進することが喫緊の課題になっています。そこで、国土交通省は2014年からトラックドライバーをめざす女性を応援する「トラガール促進プロジェクト」を展開しています。

UDトラックスは、その一環として、2017年より本社敷地内のUDエクスペリエンス・センターに女性ドライバーを招き試乗会および意見交換会を開催しています。2019年は女性ドライバー約30名が参加し、女性視点で“乗りやすいトラック”“働きやすい運送業界”を考えるワークショップや、大型トラック「クオン」の試乗、工場見学、意見交換会を行いました。試乗会では「ハンドルとシート位置など小柄な女性が乗りやすい工夫がされている」「オートマチックトランスミッションは精神的・肉体的な負担・ストレスの軽減につながる実感ができた」などの声が寄せられました。女性や初心者でも容易に運転ができるトラックを提供することで、人手不足という業界課題の解決に取り組んでいます。

※トン(貨物重量)ベース。

UDエクストラマイルチャレンジ

お客さまにUDトラックスの製品と



サービスを最大限に活用していただくと同時に、ドライバーの育成に貢献するために、世界中のUDトラックドライバーを対象とした運転技術競技会「UDエクストラマイルチャレンジ」を開催しています。ドライバーは、UDトラックスの熟練技術者によるトレーニングを受け、始業点検、燃費効率・安全運転、操作性・駐車技術の3項目に関して技術を競います。2019年は各国予選が7月からスタートし、2020年3月に予定されていた最終戦は、新型コロナウイルス収束後に開催する予定です。

エコドライブ講習会

2007年から、トラックドライバーを対象に「エコドライブ講習会」を開催しています。講習会では、実際のトラックを使った運転操作や減速運転などの実技を通じて、省燃費運転につながる知識と技術の習得をめざしています。とくに、UDインフォメーションサービス(UDIS)※を活用した講習会では、ギアチェンジや車速などの項目ごとに運転の評価ができるため、客観的に運転の癖を把握し、効果的な対策ができること好評をいただいています。

2019年は全国70カ所(2018年81カ所)で開催し、1,119名(同1,018名)のお客さまに参加いただきました。受講後は燃費が平均で24.9%向上したとのデータが得られており、お客さまの燃費向上とCO₂排出量の削減



に寄与しています。

※車両に搭載している車両情報を収集・分析するためのシステム。

安全運転講習会

トラックをより安全に運行していただくために、2007年から「安全運転講習会」を開催しています。お客さまの要望に応じて、「運輸安全マネジメント」「飲酒運転の危険性」「トラックの死角」「事故事例と防止策」「危険回避」「ヒューマンエラー」などのなかからテーマを選定し、学んだ知識をすぐに実践できるよう、座学と実技を組み合わせたプログラムを提供しています。実際の事故車両に取り付けられていたドライブレコーダーで撮影された映像を使って事故を疑似体験していただくなど、お客さまが事故を自分自身のこととして捉えられるよう工夫しています。2019年は146回(2018年145回)実施し、4,261名(同4,315名)のお客さまにご参加いただきました。

お客様相談室

お客さまからのお問い合わせやご意見、ご要望にフリーコールで対応する「お客様相談室」を設置しています。想定されるお問い合わせごとにマニュアルを整備し、スムーズな対応に努めています。また、迅速かつ適切に対応するために、社内フローなどを適宜見直しています。2019年の総受付件数は4,004件(2018年3,791件)でした。

パートナーシップの強化



基本的な考え方

お客さまのビジネスの成功に貢献するためには、お客さまのニーズに沿った先進的で優れた品質の製品を開発・生産するとともに、長期間にわたって確実なサービスを提供することが重要です。その実現のために、サプライヤーや独立資本の販売会社は、UDトラックスのビジネスにおいて欠かすことのできない大切なパートナーです。

UDトラックスでは、お客さま満足の視点やボルボ・グループの方針を重視しながら、ビジネスパートナーとのより良い関係の構築をめざしています。

ボルボ・グループ調達実績(2019年)

製品・サービス購入額

2,996億SEK

世界40工場で25億個の部品を調達
SEK:スウェーデンクローナ、1SEKは約12.2円(2020年11月末現在)

一次サプライヤー社数

約51,000社

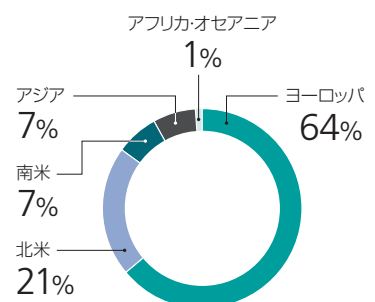
うち約6,000社から自動車部品を調達

自動車部品サプライヤーのサステナビリティ自己評価合格率(購入額比率)

92%

高リスク国においては98%

地域別調達比率



サプライヤーとのパートナーシップ

社会が大きく変化し、技術革新のサイクルが短くなるなか、輸送業界が持続可能性に配慮しながら競争力を維持していくためにはサプライヤーとの協働が不可欠です。

ボルボ・グループは、サプライヤー各社により良い製品の供給だけでなく、持続可能な社会の実現に向けてボルボ・グループに準じた責任のある行動をとるよう願っています。また、調達地域の最適化を図ることで、お客さまの要望に迅速に対応するとともに、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。UDトラックも、グローバル調達の観点から、原材料や設備、日常業務に必要なサービスや消耗品の購入にあたっては、ボルボ・グループの方針に則った調達活動を推進しています。

人、地球、収益のバランスの維持

ボルボ・グループは、持続可能性を品質や性能、納期、コストなどと同様、調達プロセスにおける主要な基準の一つとしています。

2019年には従来からサプライヤー各社にお願いしてきた取り組みを整理し、「サプライヤー行動規範」を策定しました。ボルボ・グループは、同規範を軸

に持続可能な調達プログラムを推進することで、人や環境に対するリスクに適切に対処しながら、サプライヤーとの強固な関係の構築をめざしています。

持続可能な調達プログラム

- **サプライヤー行動規範**
国連グローバル・コンパクトなど世界的に認められた基準に基づき策定。全サプライヤーに遵守をお願いしています。
- **サプライヤーサステナビリティ評価プログラム**
各社からの「サステナビリティ自己評価調査」への回答によって、企業倫理や環境パフォーマンスなどを評価。
- **サプライチェーンマッピング**
特定分野や地域におけるサプライヤーについて調査・分析。
- **人と地球に関わる取り組み**
循環型経済、リサイクル、エコデザイン、人権などについて、社内研修・啓発やベストプラクティスの共有などを実施。
- **業界のコラボレーション**
自動車産業のサプライチェーンの持続可能性に焦点を当てたDRIVE Sustainability*1、持続可能な鉱物調達に焦点を当てたRMI (Responsible Minerals Initiative) **2に参加。

- ※1自動車業界の持続可能性を推進するためのヨーロッパを中心としたパートナーシップで、世界の大手メーカー10社で構成。
- ※2自動車および電子産業における原材料の責任ある調達を審査する国際NGO。

持続可能な原料調達

ボルボ・グループは、錫、タンタル、タングステン、金、コバルトといった紛争鉱物を責任ある持続可能な方法で調達することを目的に、RMIと協働しています。参加企業は、法令遵守の強化や、高リスク地域からの責任ある鉱物調達を支援する手法やリソースを利用することができます。ボルボ・グループは、サプライチェーンの透明性確保とRMIルールの遵守のために、RMIで開発された報告用テンプレートやガイドラインを採用しています。

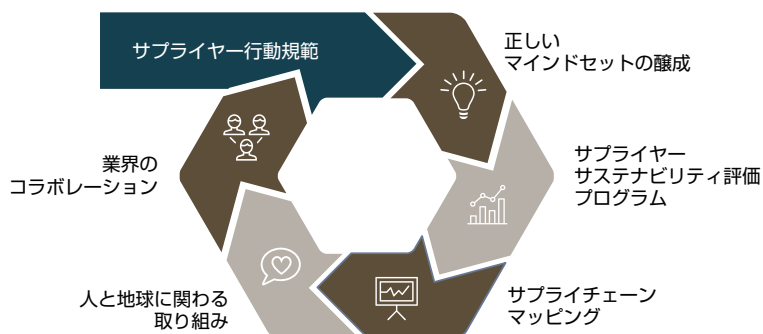
独立資本の販売会社とのパートナーシップ

UDトラックは、自社直系ディーラーのほかに、独立系ディーラー6社32拠点と連携して製品やサービスをお客さまに提供しています。各社の地域に根ざした事業活動を尊重しながら、お客さま満足度の向上を共通の目標として、直系ディーラーと同じ研修やイベントを開催し、より高い技術や最新知識の習得を支援しています。

アフターサービスに関わるスタッフへのサポート

アフターサービスに関わるスタッフの技能向上を支援しています。サービスについての最新情報・知識の共有を目的とした研修会「アップタイム・カンファレンス2019」には、独立系ディーラーから約50名が、国際的な技能競技会「UD現場チャレンジ2018」には11チーム41名が参加しました。

持続可能な調達プログラム



多様な人材の活躍支援



「D&Iウィーク」での経営層と女性従業員の対話集会

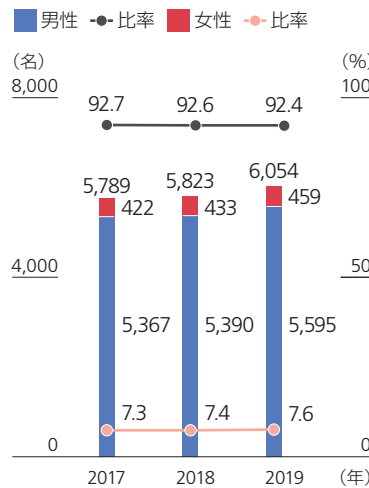
基本的な考え方

国際的な視野に立って事業を推進するために、「グローバルでハイパフォーマンス」という人材像を掲げ、優秀な人材の採用と、体系的な人材育成制度、公正・公平な評価制度の構築に注力しています。

制度の設計や運用にあたっては、「個人の尊重」「自発性」「多様性・クロスファンクショナル」「チームワーク」「情熱・責任感」「オープンな対話」といった価値観を重視するとともに、従業員意識調査の結果などを踏まえ、一人ひとりの能力を最大限に発揮できる働きやすい職場づくりに努めています。

従業員データ(2019年12月31日現在)

従業員数(直接雇用)



新卒採用者数 **225名**

キャリア採用者数 **232名**

国籍数 **28カ国**

アイルランド、アメリカ、インド、インドネシア、ウクライナ、オーストラリア、カナダ、韓国、シンガポール、スウェーデン、スペイン、スリランカ、タイ、中国、ドイツ、日本、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、ブラジル、フランス、ベトナム、ベルギー、ポーランド、マレーシア、南アフリカ、ミャンマー、モンゴル

ダイバーシティ&インクルージョンの理解と浸透

ダイバーシティ^{*1}は会社の業績向上に不可欠であるという考えのもと、従業員のさまざまな違いを尊重しています。また、人材の多様性を高め、個人が最大限に能力を発揮できる環境を築くことで、持続的な成長をめざしています。

定期的実施している従業員意識調査では、主に性別、国籍、年齢でダイバーシティの度合いを、チームの一員として必要とされていると感じているかなどを問う質問でインクルージョン^{*2}の浸透度を評価し、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)マネジメントの強化を図っています。さらに毎年10月には、社内イベント「D&Iウィーク」を開催し、ベストプラクティスの共有などを通じて、従業員のD&Iに対する意識の深化に取り組んでいます。

こうしたD&Iの取り組みの一環として、国籍を問わず採用の門戸を広げており、2019年は64名の外国籍新入社員を迎え、組織の国際化・多様性をさらに高めています。

^{*1}性別、国籍、人種、年齢、性的指向、宗教、政治に対する信条、社会経済的地位、身体能力など、異なる背景や視点をもつ人々のこと。

^{*2}自身の存在を尊重され、評価されていると感じること。また、周囲からの支援と関与を感じること。

能力開発の支援

現在の業務だけでなく、将来重要となる知識や能力の開発・向上に継続的に取り組んでいます。幅広い研修プログラムや管理システムの導入、トレーニング施設の充実などを進めるとともに、従業員の積極的な学びや自己開発を支援しています。

2018年からは、従業員が自ら学ぶ企業風土づくりをめざし、「ラーニング

デー」という啓発イベントを開催しています。2019年はさらに「キャリア」にも焦点を当て、将来のキャリア設計や、それを実現するための能力開発や学習計画に役立つ情報や手法などについてのセッションを行いました。

対話による成果・成長・信頼の醸成

上司やチームメンバーとの継続的な対話を促進しています。業務の優先度や進捗確認、改善提案や能力開発などを話し合い、フィードバックを得ることを通じて、業務の成果だけでなく、個人の成長や同僚との信頼関係の構築にもつなげています。

フレキシブルな就労環境

従業員が仕事とプライベートを効率的に両立できるよう、各種制度やポリシーなどを整え、ワークライフバランスの充実に支援しています。

個別の働き方を支援する 主な制度・ポリシーなど

- 育児休職制度
- 介護休職制度
- 取得制限を設けないテレワーク制度
- コアタイムを設けないフレックスタイム制度
- 職場での尊厳に関するポリシー（ハラスメント防止策）
- 定時退社促進活動

コミュニケーションの活性化

UDトラックスでは、従来から対話集会や「フィーカ^{*}」、イントラネットなどを通じて社内のコミュニケーションの円滑化に取り組んできました。2019年はこれをさらに進め全従業員がいつでもどこでも必要な情報を閲覧・発信・共有できる大規模なデジタルプラットフォームを導入しました。

これにより、従来は会社のPCに限られていた業務システムなどへのアクセスが、個人のPCやスマートフォン、タブレットからも可能になりました。組織やプロジェクトチーム内での情報共有や意見交換も容易になり、国や階層を越えた従業員同士の交流が活性化しています。また、従業員が多様な情報に接することで、会社に対する理解の促進や業務改善意識の向上にもつながっています。

^{*}スウェーデンでティーブレイクを利用して行われるカジュアルな対話。

健康と安全

従業員が健康で安心して働ける職場の実現のために、継続的に取り組んでいます。

安全健康週間

2019年は7月1日～7日を「安全健康週間」と定め、健康セミナーや体力測定、ストレッチ教室などを実施しました。また、労働災害防止についての啓発活動を展開しました。

ストレスチェックテスト

メンタルヘルス不調の予防のために、従業員のストレスチェックテストを実施しています。結果によって、医師やカウンセラーとの面談を促しているほか、医師からの助言に基づき、業務内容の見直しなどを行っています。



地域社会のために



提供された食事を手にする子どもたち

基本的な考え方

UDトラックスのもつ専門性や人材、施設・設備、機能といった経営資源を活かして、社会貢献活動に取り組んでいます。事業所を置く地域コミュニティや自動車関連業界など、さまざまなステークホルダーのニーズや課題に寄り添い、共に価値を生み出す活動を通じて、より良い関係を構築し、持続可能な社会の実現に寄与することをめざしています。

UDトラックス南アフリカの取り組み

食料提供プログラムを支援

UDトラックス南アフリカは、2007年から同国の貧困地域の人々へ食事を提供する「ショップライトモバイルスープキッチン」の取り組みを支援しています。これまでに、4,100万食以上の高栄養スープとパンを届けてきました。現在は、UDトラックスの車両6台を含む19台の移動キッチンカーが週6日稼働し、月平均30万食を提供しています。また、南アフリカだけでなく、隣接するアンゴラの子どもたちにも支援を広げています。

2020年、新型コロナウイルスが南アフリカ経済に大きな影響を与えたことで、この取り組みはさらに重要なものとなっています。全国的なロックダウン以降、南アフリカ全土145の団体に8万食以上を提供しました。困難な局面にあっても、地域の企業の社会的責任として、これからもコミュニティへの貢献に取り組んでいきます。



小学生向け交通安全教室

埼玉県は、営業用トラックによる死亡事故件数が常にワースト上位に位置しています*。UDトラックスは、埼玉県に本拠を置くトラックメーカーの社会的責任の一つとして交通事故の防止に貢献することを目的に、2016年から上尾市の小学生を対象に交通安全教室を実施しています。

「体験」を重視したこのプログラムでは、1学級ごとに、大型トラックを使用して死角や内輪差を体験しながら、安全行動について学んでもらっています。また、プログラムの最後には大型トラックの運転席に座り、トラックドライバーから車外がどのように見えるかも確認します。引率の先生からは、「実際に自分の目で確かめたり体験したりできるので、子どもたちの安全への意識が高まりました。運転席に座れたことも貴重な経験になりました」などの感想をいただいています。2019年までの4年間で児童1,934名が参加し、のべ197名の従業員がスタッフとして運営に携わりました。

*公益社団法人全日本トラック協会の統計データより。対象は、営業用トラックのうち軽自動車を除く。

小学生の校外学習の受け入れ

2019年6月、上尾市内の小学校の特別支援学級に通う児童の校外学習を受け入れました。参加したのは「食」について学習を重ねてきた1年生～6年生までの児童で、さいたま市内の食品卸売市場を見学したあと、食品の輸送に欠かせないトラックについて学ぶためにUDトラックスを訪れました。

この校外学習では、まずUDエキスナリエンス・センターにおいて、過去から現



在、未来に至るトラックの変遷を紹介しました。その後、屋外で荷物の積み下ろしのデモンストレーションを行いました。大型トラックのウィングが自動で開くと大歓声が沸き、それと同時に、卸売市場で見た食品が、どのようにトラックに積み込まれるのかが具体的に想像できたようでした。今後も学校から要望があった場合は、地域社会への貢献の一つとして積極的に対応していきます。

インターネット体験会

自分たちのスキルを社会に還元したいという思いから、IT部門の従業員が中心となって60歳以上の上尾市民を対象に2016年から「インターネット体験会」を開催しています。ITツールに不慣れなシニア世代の方が、インターネットを通じて有益な情報や興味・関心のある情報にアクセスできるよう支援し、そのQOL(生活の質)向上に貢献することを目標にしています。参加した方からは、「緊急災害情報や路線案内など日常生活に必要な情報を手元ですぐに入手できるようになった」「教材や説明がわかりやすく、これをきっかけにもっと使いこなせるようになりたい」などの声が寄せられています。

2019年からは、機材をPCからタブレットに変え、音声入力機能やアプリを活用したより簡単で便利な使い方を紹介しています。この体験会では、講師の

ほかに、参加者2名を1名の従業員がサポートし、ITツールに触れるのが初めての方にも無理なく楽しく参加していただけるように工夫しています。

新型コロナウイルスへの対応

2020年に入り世界中で新型コロナウイルス感染症の拡大が大きな影響を及ぼしていることを受け、UDトラックスは、それぞれの地域で支援活動を行っています。

日本では、5月に上尾市の公立保育所に5,000枚のマスクを寄贈しました。これに対して市長の畠山氏より、「小中学校は休校になっても、保育所は通常どおりお子さんたちを受け入れており、ウイルス蔓延を防ぐための職員の苦勞は計り知れない。マスクの入手もまだまだ困難で、今回の寄贈は本当にありがたい」と、感謝の言葉をいただきました。

また6月には、本社近隣の上尾市立大谷小学校にマスク5,000枚を寄贈し、学校再開後の感染予防に役立てていただきました。

タイでは、パンデミックの発生に備えて従業員が献血を行いました。7月、タイ北東部のコーンケン販売店で、地元の病院との協働で献血デーを実施し、50名以上の従業員が協力しました。

インドネシアでも、コロナの影響で職を失い困窮する住民に、米や調味料など生活に必要な物資を届けました。



環境経営の推進



本社・上尾工場

基本的な考え方

ボルボ・グループは「環境方針」を定め、長年にわたり環境対策に取り組んできました。

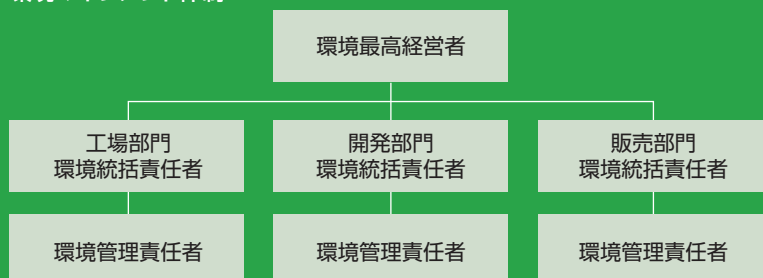
UDトラックスでもこの方針に則り、全事業活動において環境保全活動を推進し、持続可能な社会の実現をめざしています。

環境方針

「輸送ソリューションを通じて豊かな社会づくりに貢献する」というボルボ・グループの使命における重要な要素として、次の原則に基づき環境対策の推進に取り組みます。

- 製品ライフサイクル全体での環境に対する影響を継続的に削減し、持続可能性とカスタマー・サクセスを実現します。
- 事業を展開するすべての地域で、環境に配慮する責任を果たし、行動規範に基づいた行動により信頼を構築します。
- 私たちの影響が及ぶ範囲において、資源利用、排出物と廃棄物を最小限に抑え、様々な手段で循環型経済の実現に向けて変革を起こすとともに、会社の競争力をさらに高めます。

環境マネジメント体制



ISO14001 認証の取得

UDトラックスは、ISO14001の認証を取得しています。1998年度に上尾工場が取得後、2017年度までに各工場・関連会社において順次取得し、2018年8月末にはISO14001:2015年改訂規格への移行を完了しました。

現在は、全社で環境マネジメントシステムを運用することで、環境活動計画で定めた目的・目標の達成をめざしています。

環境マネジメントシステムに対する内部監査／外部審査

環境マネジメントシステムが適切に機能していることをチェックするために、社内規定に基づく内部監査を毎年定期的実施しています。監査では、内部監査資格をもつ委員で構成する監

査チームが、環境マネジメントシステムの運用状況、社内基準、環境関連法規制の遵守状況などを確認・評価しています。

また、外部機関による審査も毎年実施しています。

製品ライフサイクルでの資源の有効利用と環境負荷低減

UDトラックスは、開発・設計から廃棄・リサイクルまで製品ライフサイクルのすべての段階で環境負荷分析を行い、環境に配慮した製品を提供するとともに、資源の有効利用と環境負荷の低減に取り組んでいます。

燃料消費を抑制する技術の開発

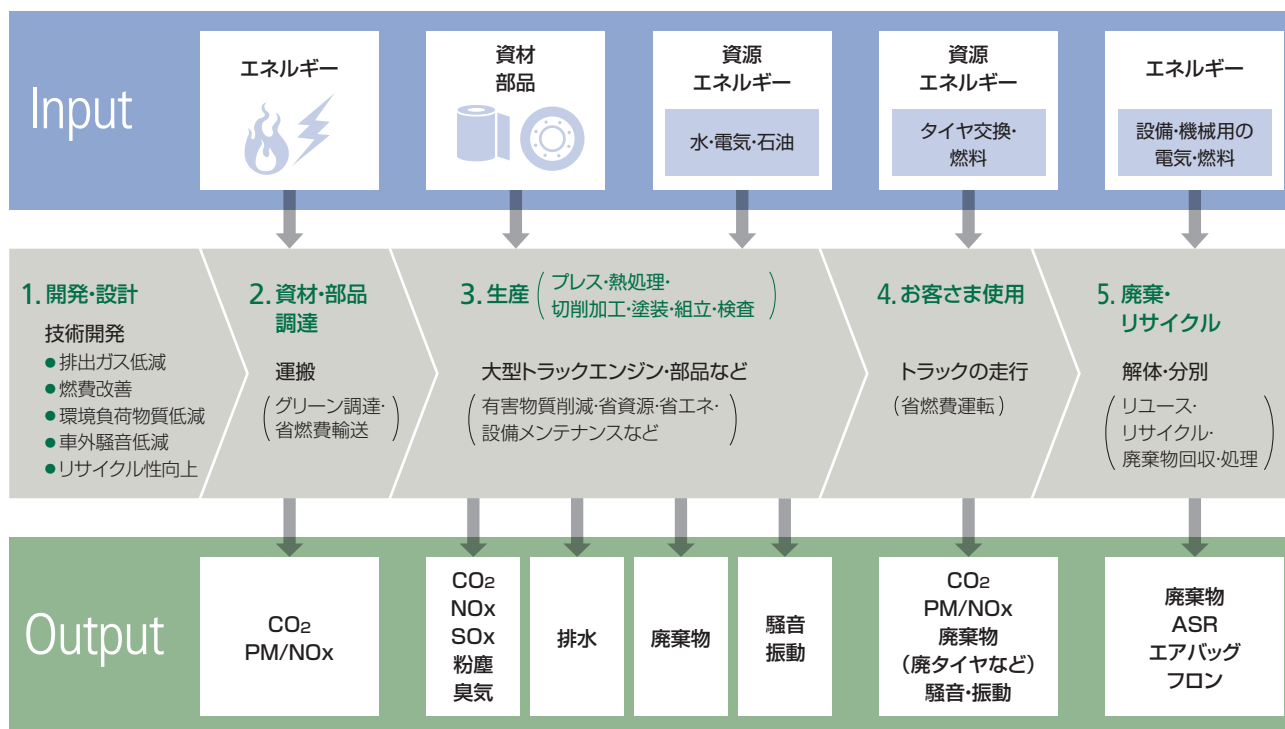
トラックの燃料消費は、事業者にとって経営上の大きな負担となるだけでなく、地球温暖化に及ぼす影響が最も

大きいCO₂排出の主な要因ともなります。

そこで、UDトラックスでは燃料消費の抑制を環境活動における最大の課題と位置づけ、長年にわたって着実に改善を図ってきました。国内では各メーカーが2015(平成27)年度に達成すべき「平成27年度重量車燃費基準」が施行され、車両重量などのカテゴリごとに目標燃費値が設定されています。2019年度販売実績において、目標燃費を達成した車両台数は販売台数の98%を超え、平均燃費値においては2012年以降企業目標を達成しています。

また、車両の燃費改善とともに、トラックドライバーに省燃費運転につながる知識と技術をレクチャーする「エコドライブ講習会」を全国各地で継続的に実施しています。

マテリアルフロー



トラックのライフサイクルでの環境負荷は、ほとんどが使用中に発生するCO₂と排出ガス(PM・NO_x)です。

燃費改善技術

エンジンやトランスミッションなど駆動系の性能向上や、走行状態のきめ細かな制御など、燃費を改善するさまざまな先進技術を積極的に搭載することにより、大型トラック「クオン」の主要車型の9割以上において「平成27年度重量車燃費基準」の目標値に対して105%以上を達成しました。

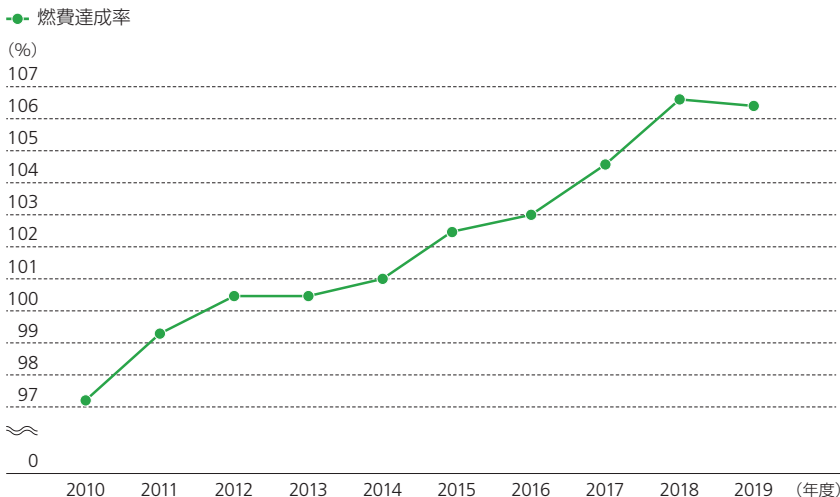


燃費改善に貢献する「クオン」のドライブライン

大型トラック「クオン」に採用している主な技術

車両	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃費コーチ(省燃費運転をガイド) ● フォアトラック(道路勾配を記憶し先読み制御) ● 空気抵抗の低減(エアダム一体型フロントバンパー、新デザインの導風板など)
エンジン	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃料噴射システムの変更 ● 燃焼室(ピストン)の形状変更 ● 吸気系の形状変更 ● 可変速のウォーターポンプの採用 ● 小排気量エンジン(8L)の採用
駆動系	<ul style="list-style-type: none"> ● ESCOTロール(惰力走行時の速度低下制御) ● アクセラレーションリミッター(急激なアクセル操作の抑制) ● ソフトクルーズ(加速制御)

UDトラック燃費改善状況



※ 2015年基準値を100%とした場合の販売台数による加重調和平均。

化学物質の管理

化学物質の製造・輸入・管理、環境配慮設計、リサイクルなどに関する法規制や産業界の自主基準の遵守を前提に、自動車業界の統一化学物質リスト(GADSL)に基づき、製品に含有される化学物質の管理に努めています。

化学物質管理の取り組み

開発・設計段階

- 各工程でサプライヤーを含めた化学物質の使用状況を確認
- 必要に応じてIMDS※1へ情報を登録

生産段階

- PRTR制度※2に基づき毎年届出・報告を実施
- 社内基準として運用し有害物質代替活動を推進
- 法律の改正に対しても適切に対応

※1 世界各国の自動車メーカーが環境保全を目的に共同で運営している材料データベース。

※2 特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律。

事業活動に伴うCO₂排出量の削減

ボルボ・グループは、2011年にWWF(世界自然保護基金)の「クライメート・セイバーズ・プログラム^{*}」に自動車メーカーとして初めて参加し、グループの生産工場から排出するCO₂量を2014年までに2008年比12%削減する目標を掲げていましたが、2013年に目標を大きく上回る20%の削減を達成しました。

この結果を受け2015年からは、2020年までに2013年比で8%削減する目標を新たに掲げ活動を加速させています。UDトラックもこの削減目標達成に向け、各部門の代表者で構成する「省エネルギー推進会議」などにおいて、具体的な活動項目やアクションプランを検討しています。

またUDトラックスでは、「2013年度のCO₂排出量については1990年度比39%の削減」という目標を掲げ、その成果として当初目標を大きく上回る61.3%の削減に成功しました。引き続き2020年目標の達成に向けて削減を進めています。

^{*}WWFと企業のパートナーシップで温室効果ガス削減を進めるプログラム。

グリーン電力の購入

2013年以降、上尾工場以外の一部施設においてグリーン電力を購入しており、2019年5月からは上尾工場でも購入を開始しました。この取り組みにより、同工場のCO₂排出量を2018年度比で3%削減しました。

工場照明のLED化

上尾工場では、2017年より寿命を迎えた照明器具から順次LED化を進めています。2019年までに561灯のLED照明を設置し、同工場のCO₂排出量を



2018年度比で0.4%削減しました。2020年度は約6,000灯をLED化する計画です。

製品廃棄時の廃棄物削減

製品ライフサイクルで最も多く廃棄物が発生するのは、ディーラーでの製品廃棄時です。そのためUDトラックスでは廃棄物管理体制を構築し、2014年から廃棄物分別管理に関する社内処理基準を全ディーラー拠点に導入しています。各拠点では、これに従って専用の設備を設置し、廃棄物を細かく分別しています。また、ディーラーへ発送するサービスパーツの梱包容器のリターナブル化を進め、各ディーラー拠点に再利用を促しています。

開発段階においては、3分割バンパーや、レンズとLEDユニットが単体交換可能な易解体性ヘッドランプ、リサイ

クル材使用フェンダーなど、解体のしやすさや資源の有効利用を考慮した設計を行っています。

生産段階では、廃棄物最終処分量の削減を目標に、廃棄物の発生抑制とリサイクルに取り組んでいます。2019年度においては、廃棄物最終処分量を1990年度比で99.9%削減。また、リサイクル率も全社で99%以上(ゼロエミッション)を維持しています。

UDトラックスでは、こうした廃棄物管理体制の強化を目的に、2015年4月から廃棄物処理の専門会社とコンサルタント契約を締結しています。信頼性の高い処理会社の選定や行政への届出、帳票(マニフェスト)管理、処分量集計など、廃棄物管理に関わるコンプライアンスの徹底を図っています。

地球温暖化の防止に向けて「ゼロカーボン埼玉」に協力

UDトラックスは、埼玉県地球温暖化対策推進条例に沿って策定した2019年度のCO₂排出量削減目標を達成しました。このため、カーボンオフセットにかかる埼玉県の取り組み「ゼロカーボン埼玉」に協力し、埼玉県に対して埼玉県目標設定型排出量取引制度に基づくクレジットを寄付しました。



CSRストラテジー

UDトラックスは、さまざまな事業活動を通じて人と地球の「より良い暮らし」を実現することが当社の存在意義であり、事業の継続に不可欠であると考えています。CSRにおいても、社会の課題を解決し、社会インフラである「物流」の持続可能性を高め、豊かな社会づくりに貢献するという思いをビジョンとして定め、ステークホルダーの視点を重視しながら、ブレのない活動の展開をめざしています。

とくに、社会課題の解決を通じてステークホルダーと当社の双方に価値を生み出し、持続可能な社会をめざすCSV(共有価値の創造)の領域においては、「物流」「地域社会」にフォーカスすることによって、当社のもつ知見や専門性、人材や施設と

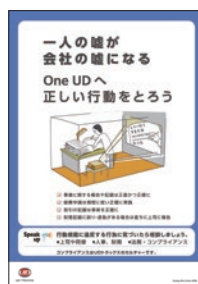
いった経営資源を社会に還元することをめざしています。さらに「物流」では、「環境」「安全」「人」という3つの重点エリアを定めることで、より具体的で実効性のある活動につなげています。同時に、すべての事業活動のなかで必ず実行すべきCSRを「基本的CSR」と定義し、コーポレート・ガバナンスやコンプライアンスの強化、ボルボ・グループの行動規範に基づく活動などを推進しています。

UDトラックスでは、全従業員に対して参画を促すことにより、会社と従業員が一体感をもって持続可能な社会の実現に取り組んでいます。



ボルボ・グループ行動規範

ボルボ・グループでは、法令を遵守し、倫理的にビジネスを遂行するために、世界中のすべての従業員が実践すべき基本原則や行動を「ボルボ・グループ行動規範」に定めています。UDトラックスでは、事例を取り入れた冊子やポスターを作成・配布しているほか、全事務職従業員を対象にしたeラーニングや、工場やディーラー拠点での管理職者によるトレーニングを実施するなど、全従業員の意識啓発に取り組んでいます。



ボルボ・グループ行動規範の周知を図るポスター

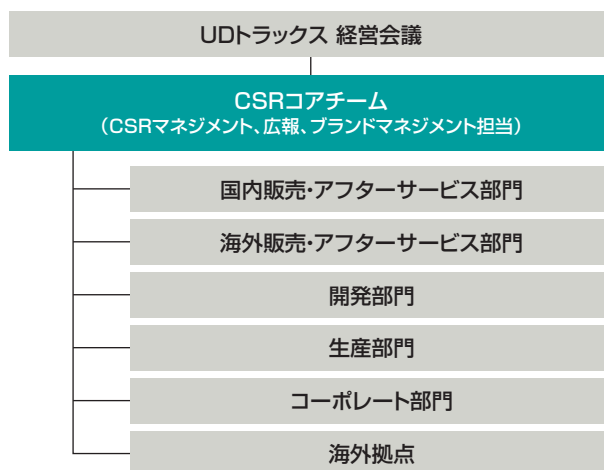


ボルボ・グループ行動規範

CSRマネジメント体制

CSRマネジメント担当が中心となり、CSRを推進しています。社内のさまざまな部門で取り組んでいるCSR活動に関する情報の集約やコーディネーションのほか、広報やブランドマネジメント担当と協力してコアチームを構成し、CSR戦略の策定など会社全体のCSRの枠組みや社内外への認知向上などについて検討しています。

また、全社で方向性の一致した活動を展開していくために、海外の拠点を含む各部門でCSR担当者を選任し、定例会議のなかで組織横断的な情報の共有や具体的な活動の企画・検討を行っています。さらに、経営会議において取り組みの進捗を報告し、経営層の指示・判断、承認を受けています。



コンプライアンス

UDトラックスは、「ボルボ・グループ行動規範」に定められた「お互いを尊重する」「公正かつ合法的にビジネスを獲得する」「事業活動と個人的な利害を切り分ける」「企業情報と資産を保護する」「透明性、そして責任感をもってやり取りを行う」という5つの重要な原則に則った事業活動に努めています。この「ボルボ・グループ行動規範」に定められた原則を周知するため、UDトラックスにおいては、経営幹部や従業員に向けて、法

令遵守のための研修やeラーニングなどを継続的に行っています。従業員の入社時はもちろんのこと、それ以外にも各々の担当業務に則した内容で随時実施しています。

また、コンプライアンス違反のおそれがある状況に適時かつ適切に対応できるよう、内部通報制度や監査体制を社内に整備しています。

リスクマネジメント

セキュリティ管理部門が中心となって、リスクマネジメントの強化に取り組んでいます。同部門の主な責務は、従業員およびビジターを対象とした職場の安全の確保や、事業に関する秘匿情報や資産の保護、緊急事態への対応、クライシスマネジメン

トおよび事業継続計画の策定、災害復旧の支援など多岐にわたります。

起こりうるリスクを想定し、未然に防ぐことによって、より安心・安全な事業環境の実現に取り組んでいます。

情報セキュリティ

ボルボ・グループの「セキュリティポリシー」に基づき情報セキュリティの確保に努めています。またこのポリシーを反映した情報セキュリティ・ガバナンスの構築を進めています。

具体的には、災害によるシステム停止を防止するために、本社と耐震性の高いデータセンターの2拠点で電子情報を運用・管理するとともに、外部攻撃などによる電子情報の漏洩防止対

策を強化しています。また、全国のディーラーを対象に情報セキュリティの強化に向けた教育を定期的実施しています。

これらとともに、UDトラックスはボルボ・グループの「プライバシーポリシー」に従い、個人情報の適正な管理・保護を徹底しています。

1935年の創立以来、UDトラックは日本の商用車メーカーとして、物流の現場に携わってきました。
現在は世界60以上の国と地域において、お客さまのニーズに応えるより良いトラックとサービスの提供に取り組んでいます。

会社概要 (2020年9月30日現在、従業員数を除く)

会社名	UDトラック株式会社
創立	1935年12月1日
所在地	埼玉県上尾市大字赤丁目1番地
資本金	775億円
従業員数	6,442名(契約社員等および派遣社員を含む、2019年12月末日現在)
主な事業	<p>国内事業 大型トラックの開発・生産・輸出・販売／中小型トラックの販売／ 自動車用部品の製造・販売／トラック・バスの整備・補修部品などの販売／ ボルボブランド製品の輸入・販売</p> <p>海外事業 新興国向けの大・中・小型トラックの開発・生産・販売／ 自動車用部品の製造・販売／トラック・バスの整備・補修部品などの販売</p>
国内グループ会社	VFSジャパン株式会社、株式会社ニューメック
海外主要拠点	シンガポールオフィス、タイ工場

役員



代表取締役会長
ヨアキム・ローゼンバーク



代表取締役社長
酒巻 孝光



取締役(非常勤)
ヤングランダー



監査役
大槻 正広

沿革

年代	会社のあゆみ	製品のあゆみ
1930	1935 埼玉県川口市に日本デイズル工業(株)を創立	1938 当社初のディーゼルエンジン開発 1939 ディーゼルトラック1号車完成
1940	1942 鐘淵デイズル工業(株)に社名変更 1946 民生産業(株)に社名変更	
1950	1950 民生デイズル工業(株)に社名変更	1955 独自技術による「UDエンジン」誕生 1958 日本初積載量10トン超「6TW型」誕生
1960	1960 日産ディーゼル工業(株)に社名変更 1962 上尾工場の操業開始	
1970		1975 中型トラック「コンドル」誕生
1990		1990 大型トラック「ビッグサム」誕生
2000	2007 ボルボグループに加わる	2004 フラッグシップ大型トラック「クオン」誕生
2010	2010 UDトラック(株)に社名変更 2014 販売会社UDトラックスジャパン(株)を合併	2013 新興国向け大型トラック「クエスター」誕生 2014 小型トラック「カゼット」誕生 2017 新型「クオン」「コンドル」発売、新興国向け中型トラック「クローナー」、小型トラック「クーザー」誕生

取り扱い製品



UDトラック
大型トラック「クオン」、中型トラック「コンドル」、
小型トラック「カゼット」および新興国向け大型トラック「クエスター」、中型トラック「クローナー」、
小型トラック「クーザー」を展開。



ボルボトラック
ボルボブランドの大型トラックの輸入・販売。日本市場における取り扱い製品は、オンロードのボルボFH4×2、6×4トラクター、オフロード(構内専用)のFMX6×4、8×4ダンプトラック。



ボルボ・ペンタ
ボルボペンタブランドの産業、船用エンジンの輸入と各OEMへの搭載技術支援。日本市場での主力製品はフォークリフトなどに使用される産業用エンジン、レジャーボート用高級船用エンジン。



ボルボ建設機械
ボルボブランドの建設機械輸入代理店のサポートおよびマーケティング。日本市場における取り扱い製品は油圧ショベル、ホイールローダー、アーティキュレートダンプトラックおよび関連機器。

UDトラックが所属するボルボ・グループは、スウェーデン・ヨーテボリを本拠とし、トラックやバス、建設機械、船舶・産業用エンジンの製造や金融サービスなど、さまざまなソリューションを提供するグローバルカンパニーです。世界18カ国に生産拠点を置き、約10万名の従業員が、190以上のマーケットで事業を推進しています。

事業分野



道路で

家庭への食料配送、工場への資材運搬、目的地への人の移動、そしてそのための道路整備など、ボルボ・グループの製品は輸送に関わる多くの場面で活躍しています。



道路の外で

ボルボ・グループのエンジンや機械、車両は、建設や鉱山、林業など、さまざまな現場で稼働しています。灌漑設備の動力として世界各地の農地も潤っています。



市街地で

通勤・通学を担うバスや公共交通機関の運行システム、ごみ回収やインフラ整備に使われる車両など、ボルボ・グループの製品は日常生活の一部となっています。



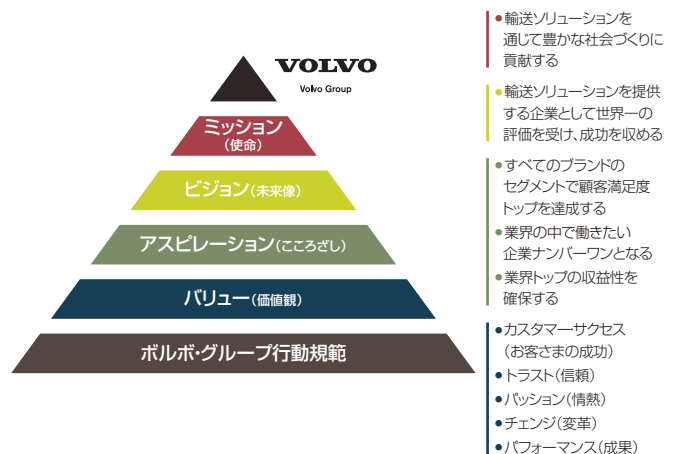
海上で

船舶を使った業務からレジャーや救命救急の現場まで、ボルボ・グループは幅広い用途の船用エンジンを提供。海上における多様な活動を支援しています。

企業戦略

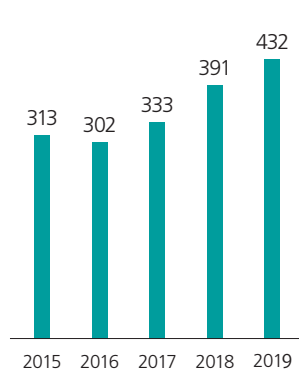
ボルボ・グループの「ミッション」は、「輸送ソリューションを通じて豊かな社会づくりに貢献すること」です。そして、それを実現するための「ビジョン」、ビジョンを実現するための目標となる「アスピレーション」、企業文化を醸成するための「バリュー」を、ボルボ・グループがめざすべき方向性としてすべての従業員と共有し、あらゆる事業活動に反映しながら、さらなるビジネスの発展と持続可能な社会の実現に取り組んでいます。

また、全従業員が履行すべき基本原則や行動を「ボルボ・グループ行動規範」として定め、すべての事業活動において求められる倫理観とコンプライアンスを明確に示しています。

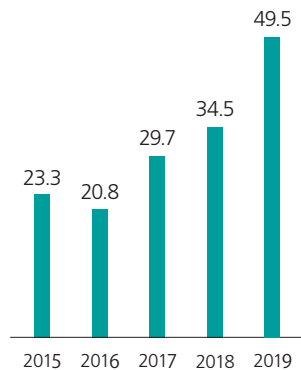


2019年の主な業績

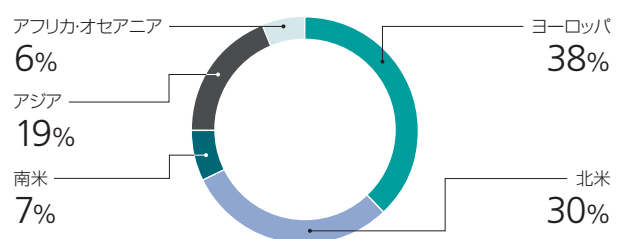
売上高(10億SEK)



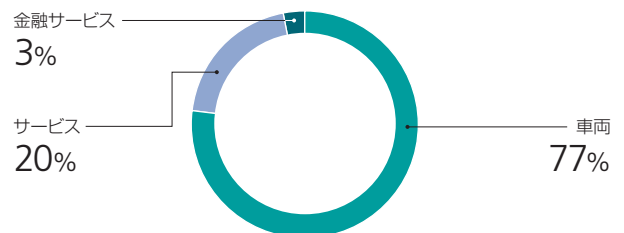
営業利益(10億SEK)



地域別売上高比率



商品別売上高比率



従業員数 103,985名	女性従業員比率 19%	CO ₂ 排出原単位 0.8 t/百万SEK	エネルギー消費原単位 5.1 MWh/百万SEK
-------------------------	-----------------------	---	------------------------------------

SEK: スウェーデンクローナ、1SEKは約12.2円(2020年11月末現在)

UDトラックス株式会社

〒362-8523 埼玉県上尾市大字町丁目1番地
udtrucks.com/japan

